

---

■ さろん | Mail News 2018/8/18 | #121 ■ 【読み物号】

ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのままご返信ください。

---

哲学カフェ及び関連イベント情報をお送りします。

ご興味・ご関心にお役立ていただきながら、今後とも「さろん」を応援いただければ幸いです。

メールニュース掲載のコラムは執筆者の個人的な見解であり、会としての見解と異なる場合があります。予めご了承ください。

---

---

=====Vol.121 2018年8月18日(土)=====

さ | ろ | ん |  
— | — | —

M | a | i | l | N | e | w | s |  
— | — | — | — | — | — | —

<http://salon-public.com/>

(バックナンバーはHPからご覧いただけます)

<https://twitter.com/salontetsugaku>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

---

---

INDEX

- | 【1】 ふくろう広場 (会からのお知らせ)
  - | 【2】 (8/28) ゆる夏カフェ「夏休みのおわりに」
  - | 【3】 コラム/エッセイ
    - ◇ 『聞くことの難しさを想う』
  - | 【寄稿】「夜と霧」読書会感想
  - | 【ご案内】《さろんラボ》
  - | 【4】 コトバをハーバリウムする
  - | 【5】 さろんアーカイブの遊歩道
  - | 編集後記
- 

CONTENTS

---

---

【1】 会からのお知らせ

ふくろう広場

---

1) 特別催事のご案内

さろんは9月で8周年を迎えます。

2010年9月がスタートなので、西暦の下一桁がそのままさろんの〇周年になるんですよ。  
まるで三島由紀夫みたい。

というわけでいつものレギュラープログラム（一般事業とも言う）とは違う、  
スペシャルプログラム（特別事業とも）を、今年も行います。

現時点で決まっている特別事業は下記のとおりです。気になる物にはぜひ早目にお申込みを♪  
これ以外にも11月辺り、なにかあったりする、かも。。。

(1) 【さろん哲学 ★8周年記念例会★】

9/15 (土) 15:00 - 17:00

テーマ：「なぜなつかしいのか？」

担 当：堀越

いつもと違う会場で「なつかしい」について考えます。

今回は会場も、キャバも新しい試み。

(2) 【さろん Remix 「池上大捜査線」 ★8周年記念スペシャル企画★】

9/24 (月・祝) 13:00 - 18:00

担 当：楠本

さろんのアーカイブを「いま」の視点で再解釈。

よりインティメイトに、そしてモダンに磨きをかける remix 企画。

今回は「さろん工房」の街歩き+探索型ワークショップを remix。

詳細はこちら⇒ <http://salon-public.com/koubou/>

(3) 【『みんなで考えよう』合評会：哲プラ連絡会機関誌】

9/22 (土) 14:30 - 18:00

担 当：芹沢

さろん内外に関係なく、みんなで読んで、「みんなで考えよう」と思っています。

どこで、どんな人が、どんな風に、「問い」や「哲学的な探究」に取り組んでいるのか。

〈わたし〉はそれを読むことで、なにをまなぶことができるのか。

刺激と対話に満ちた時間になればとおもいます。

(ご参考) <http://philosophicalpractice.jp/news/letsthinktogether/>

(4) 【さろん哲学 ★第100回記念特別回★】

12/15 (土) 15:00 - 19:00

担 当：野田

100回記念例会@中目黒

さろん哲学(例会)もついに大台です。

毎月1回のシンプルな積み重ねをあらためて言祝ぎたいと思います。

例会後のアフターパーティ付の予定です

(5) 【さろんクリスマスパーティー2018】

12/22 (土) 午後 - 夕方

実行委員長：堀越

アレですね。毎年恒例の。濃いやつ。

クリパ。

初めての方も、数年ぶりの方も、とことん一緒になごみましょう。

今年も、実行委員長が全力投入です。

2) さろんのスタッフ推薦本の読書会

現在開催中の朝さろん〈リクエストシーズン〉。

10月と11月は、さろんのスタッフが推薦&進行を担当します。

◇10/21 (日) 『君の隣臓をたべたい』 (住野よる)

進行：堀越 (さろん) さん

<http://www.futabasha.co.jp/introduction/2015/kimisui/>

◇11/11 (日) 『神様のいない日本シリーズ』 (田中慎弥)

進行：楠本 (さろん) さん

<https://books.bunshun.jp/ud/book/num/9784167835019>

ふだんは「さろん哲学」や「さろん Remix」を担当している二人が、ここではどんな貌を見せてくれるのか。乞うご期待です。

時間はいずれも 9:05 - 12:00。

ちなみに『君の隣臓をたべたい』は 9/1 から劇場長編アニメも公開だとか。たぶん来てます。

3) さろんの年度は8月でひと区切り

2019年4月30日火曜日に「平成」が31年をもって終わります。

だからことしは平成最後の夏、というのがやはり文句にもなっていました。

日本では4月はじまりの3月おわりというのを多くみかけますが、さろんは9月からスタートしているんで、いまのところ、事業年度&会計年度が9月はじまりの8月おわりとなっています。

まるで海外の学校みたいです。

そういうわけで、一番上の1) で9月以降の催事をご紹介しているので

「あー下半期のラインナップだなー」と思われて当然なんですけど会としては「よっしゃ。新しい年度のスタート、がんばっていきまっしょい」ってな心境なんです。

で新しい年度のスタートなので、特に会計(予算)面で、新しい取組みがはじまります。

どんなものかは別稿をもってきちんとご報告したいと思いますが、根底にあるのは各活動の一層の充実、安定的な継続可能性、そしてなによりそれらを通じた満足感の向上です。

イベント数を徒らに増やす(減らす)のではなく、バラエティをただ増やす(減らす)のでもな

く、年度というスパンで計画的に事業戦略を立てること。

実行し、見直し、次に活かしていくこと。

目には見えにくい取組みですが、さろんの体幹を鍛えるトレーニングなのかもしれません。

こういう変化に挑戦できるのは、会計や経理を担ってくれてる屋台骨の存在があってこそです。

ところで。

今年の師走は「平成最後の大晦日」になるのでしょうかから、12/23の天皇誕生日も含め、いっそう平成に思いを馳せることになりそうですね。(元号って〈私〉にとってどんな意味があるんだろう。)

---

## 【2】ゆるカフェ

(8/28) ゆる夏カフェ

「夏休みのおわりに」

---

通称『ゆるカフェ』。

木漏れ日ふりそそぐ昼下がりの気分で、できるだけゆったり、今月は営業します。

8月もおわりに近づくと、過ぎゆく夏を惜しむ気分になりませんか。

今年の、平成最後の夏は、みなさんにとってどんな夏、あるいは夏休みでしたか。

「夏休みのおわりに」、ゆるっと珈琲でもいかがでしょう。

前週末に開催の哲プラ関連の感想もウェルカムです。

8月28日(火) 19:00 オープンです。

今月も例によって例のごとく少人数で集まって、ゆったり考えたり感じたり聞いたりしてみます。

ゆるっと奏でる月イチのセッション、お気軽にいらしてください。

定員5名まで ※最少挙行人数3名

8月28日(火) 19:00 - 21:15頃

代々木近辺の喫茶店(申込者にご案内)

参加費100円(別途、注文した飲食費実費をお支払いください)

お申込み: [salontetsugaku@gmail.com](mailto:salontetsugaku@gmail.com)

(幹事: せりざわ)

---

## 【3】コラム/エッセイ

▽【聞くことの難しさを想う】 一生

---

▽【聞くことの難しさを想う】 一生

音楽家・エッセイストの寺尾紗穂氏は語る\*1。「…『原発労働者』を出したとき、出版社は帯にわかりやすい文句をつけ、週刊誌でもセンセーショナルな見出しで紹介されました。新聞にしろ、

週刊誌にしる、『わかりやすさ』が必要です。でも私はそれを掲げてしまった瞬間に零れ落ちるものが気になりました。売るために必要とはわかっていても、少し乱暴に思えました。一人の人の話をじっくりと聞いていくと、当然ながら、一言では語りきれない思いに出会います。そうした思いに触れ、時に苦い失敗も重ねながら、次第に掲げられた『わかりやすさ』に対する距離感が自分の中に生まれていきました」。

さらに、続ける\*1。「…柳田國男が『遠野物語』について“一字一句をも加減せず感じたるままを書きたり”と書いたというのは、適切な表現のように思います。聞いて書く、ということは、感じたことを書くということなのだ、と常々感じます。取材を受けて記事を読むと、こんなに断定するようにはしゃべっていない、と思うこともありますし、逆に取材する側としての経験を振り返れば、自分の思い込みで話者の意図を正確に伝えられなかったこともあります。人は聞きたいことを聞き、感じたいことを感じる、ということから完全には逃れられないのだろうと思います」。

エッセイストは「一人の人の話をじっくりと聞いていくと…一言では語りきれない思いに出会い」「『わかりやすさ』に対する距離感が自分の中に生まれていきました」と回想し「人は聞きたいことを聞き、感じたいことを感じる、ということから完全には逃れられない」と語る。筆者も先月弊会例会の録音を聞き直し、いかに聞きたいことを聞いていたかに気付く。相手の意図を誤解している可能性があるという視点に立ち、意図を確認する質問を繰り返しながら「一言では語りきれない思い」を探るしかあるまい。語り切れない思いを意識しながら、多くの哲学対話では発言の意図を確認する質問を奨励する。また、これは対話の最後に内容の要約を控えることが多いことにも関係しているように思う。

\*1：朝日新聞 2017年12月23日「あなたへ往復書簡2通目」～寺尾紗穂氏より赤坂憲雄氏へ

---

【寄稿】

「夜と霧」読書会感想 (大山さん)

---

【編集担当より】

本稿は、7/8に開催された朝さろんリクエストシーズンにおいて、V・E・フランク『夜と霧』(みすず書房)を推薦&進行を担当頂いた大山さんが、メールニュース用にご寄稿下さいました。当日の参加者は14名。改めてご参加頂いた方々に御礼申し上げます。

私は、かねがね、著者のことを俯瞰してそれを本の解釈につなげてしてしまうのは、リスペクトに欠けるし、安易な解釈にも陥りがちになるのでは、と勝手に思っていましたが、「夜と霧」といった、著者自身のことも記されている本であれば、テキストに則して、著者ののにじみでているありようを推測するのは、むしろ、さらなる理解への心構えをかきたてうるかもしれないと、今回、参加者のご意見から学ばせていただきました。

そのご意見とは、著者自身が収容所を生き延びている一方で、「いい人は帰ってこなかった(p5)」と、最初に前置きしていることに端を発した、次のようなものである。

運命を受けとめ犠牲になっていった「いい人」たちを手本とし、人はどうあるべきか、を述べた道義的な語り口は、随所で感じられる著者の生き延びるためのしたたかさとは、あまりしっくりせず、「矛盾」しているようにさえ見える……。

このご意見は、今回ご質問として挙げた、「未来」に自分をまぢわびている子どもや仕事があることを知ることが破綻しない唯一の道であるとしながらも、それをなぜ「トリック(p123)」などという狡猾さをにおわせる表現にしている箇所があるのか？という疑問にも繋がる。

「存在が困難を極める現在にあって、人は何度となく未来を見ずえることに逃げ込んだ(p123)」ともあるように、「未来」を信じることは、思考テクニックを弄しての苦しい現在からの逃避とも読めるが、そのことは、自分に与えられた苦しみを苦しみ尽くした犠牲者のありように著者が感銘を受け手本としたことと「矛盾」しているように、ここでも思われるのである。

この他にも腑に落ちない表現があるなかで、もうひとつ今回焦点になったのは「強制収容所での生のような、仕事に真価を発揮する機会も、体験に値すべきことを体験する機会も皆無の生にも、意味はある(p112)」の「意味」とは何か、という点である。

これといった価値のないことを無意味というように、「意味」には「価値」という意味が含まれるが、上述の生にどういう「価値」(=「意味」)がありうるのだろうか？……私には想像がつきませんでした。

今回、参加者の一人が、別の著書を引用し、「運命を受けとめる態度」によって実現される「価値」がある、という考えに基づいた「態度価値」というフランクが提唱した概念を挙げてくださり、上述の「意味」とはこのことを言う、という解説をしてくださった。

そのおかげで議論がさらに活性化し、私も、次のような問いが浮かびました。……たしかに、著者が出会った、余命いくばくもない病棟の若い女性のように、その運命を受け止めるさまを、他者によってまのあたりにされていれば、その他者が、この女性のありように感動をおこさせてくれるといった価値を認めてくれるかもしれない。だけど、例えば、誰からも冤罪だと知られていない一人の冤罪死刑囚が、人知れずその不条理な運命を受け止めて死んでいったとしても、その正確なありようは誰も知りようがないが、こうした場合は、どうなるのであろうか。

このとき、たとえ当人に深い満足が生じようとも、そのありようが誰にも知られず、したがってそれがほんとうに価値あることなのか否か客観的に検証されないとすれば、自己満足の域を越えず、「価値」があるとは言えなくなりはないか？(誰にも知ってもらえず、たったひとりで不条理な運命を受けとめる場合は、その態度に意味などありません……というのなら、「運命を受けとめる態度」そのものに価値がある、とはいえなくなる。と同時に「態度価値」という概念性も無効になってしまうのではないだろうか。)

むろん、こうした疑問は的外れかもしれないが、他にも本書における著者の考えには、(私にとっでは)「矛盾」しているとおもわれる箇所があり、安易な納得を拒んでるかのよう思える。

あるいは、参加者の一人がおっしゃったように、過酷な状況を人間が生き延びるのは「矛盾」なしにはありえない、ということ、本書全体は示唆しているのかもしれないが、私は、この「矛盾」として見える、にじみでている著者のありようと私のありよとの間にひそむ大きな溝に、さらに居

住まいを正して臨む必要があると感じました。

---

### 「文庫本の解説、のような添え書き」

文庫本ってたいい、解説かあとがきがついてますよね。第三者に原稿料を払って解説を書いてもらう。単行本にはついてない解説が魅力で「文庫派」という人もいます。安く仕上げる場合は著者があとがきを付してたりもしますが、あるいは「絶対つけてくれるな」という単行本そのまま派も。著者の嗜好や交友関係なんかも伺えて文庫には独特の楽しみがあります。そんな文庫のように、ご担当頂いたことの感謝を込めて、添え書きを寄せてみます。

筆者（大山氏、以下同）は『夜と霧』の読書会を進行されたことで、やってみる前には思いもしなかったような「問い」が自分の胸の内に残ったようです。その「問い」を、主として本書の理解をめぐる”矛盾”として自覚されています。矛盾。二つの事柄が丸きり正反対のことを指していて、どちらを選んだらよいか判断の根拠が不透明な状態。この膠着した状態で、筆者は粘り強く、じっくりと、読書会での対話を反芻し、再検証を加えています。

ここでは「なにが真か（正解）」を探るまなざしと、「自分が納得するのはどんな解か（納得解）」を探るまなざしとが共存しています、ご承知のとおり、正解と納得解とは、同じでないことが珍しくありません（行動原理により深く根差すのは納得解の方だったりします）。筆者はこの両者をできるだけ峻別し、それぞれを見極めようと目を凝らしているのですが、実は正解と納得解のような”ねじれ”が、大元の『夜と霧』の中にもある”つばい”というのがそもそもの発端になっています。

作家の伝記的事実や発言をそのまま無批判に作品の読解に持ち込む（≒作家論的）態度を、筆者は冒頭で嫌っています。そうではなく、書かれた内容に添ってじっくりと向き合うこと（≒作品論的。より原理的な徹底を図るとテキスト論に寄って行く）を大事にしています。しかし筆者は、『夜と霧』はフィクションではなく歴史的な事実とその考察を描いた本なので、作者フランクルの体験的な事象も加味しながら、書き手＝体験者の存在を踏まえて読むことの方が自然で、その方が適切な理解につながるのではないかとスタンスを修正して本書に臨んでいます。

でも筆者がみんなでじっくりと本書を読みこんでみたところ、「ん？」と疑問を感じる表現に行き当たります。この疑問はつまるところ、収容所の人々を冷徹に症例観察し、その結果を一種の研究成果としてまとめた本書という「事後的」かつ「精神科医」としての様態と、自らも深刻な状況の中で生き延びる為にさまざまなことをしたという「渦中」かつ「同じ体験者」としての様態との裂け目から生じた摩擦です。本書がアウシュビッツ生存者による単なる「手記」であつたら、これほど広範な読者を得ることはなかったでしょう。

本書は体験記でありながらも、その根底において心理学者としての著述が優先されています。だから作中でフランクルは、自分自身の中にある「生身の強制収容者のひとり」としての raw な記述を遠まわしに避けているような節があります。筆者である大山氏はそこに、巧妙に隠されたものを感じているようです。無理矢理小説に例えれば、「信用できない語り手」につながるような疑問かもしれません。しかしフランクル自身が作中で「トリック」と自らを評しているように、自覚的・意識的であると感じられる点もあり、一筋縄ではいかないのです。

『夜と霧』を読んで、読者みんなで話し合いをし、その上でまとめられた大山氏の文章を拝読すると、『にじみでている著者のありようと私のありようの間にひそむ大きな溝に、さらに居住まいを正して臨む必要があると感じました』という締めの一文中にこちらも身の居住まいを正される思いがしたのでした。

こういう深みのある本でしたので、読書会終了後のアフターも大変盛り上がりました。皆さんもぜひ、これを機会に本書とあらたに出会い直して頂ければと思います。(朝さろん・芹沢)

---

## 【ご案内】

《さろんラボ》

---

名称：【さろんラボ】

コーディネーター：【堀越】

- ・哲学カフェを自分で開きたいけど、どうしたらいいかわからない…。
- ・読書会を自分で主催したいけど、自信がなくて…。

そんなときこそ「さろんラボ」がお力になります。

さろんラボでは、みなさまの「やってみたい」を核に、さろんを触媒にして、どんな化学変化が起きるかを試みる場です。

ご参考までに、このラボからは、さろんの参加者の手で、以下の二つの活動がうまれました。

【さろんラボ 001】 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

<http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/>

【さろんラボ 002】 「哲学カフェ Ante-table/アンティ・テーブル」

<http://ante-table.wix.com/ante-table>

既存の哲学カフェのカタチに限定せず、みなさんの中で温まっている関心事やご興味を添えて、どうぞお気軽に下記までご連絡下さい。

みなさんとの新しい化学変化を、スタッフ一同心から楽しみにしています。

▽詳細はこちらまで

salontetsugaku@gmail.com (担当：堀越)

---

## 【4】

コトバをハーバリウムする #34 (クスノキ)

---

本のコトバから



---

他者をカテゴリーにおいて呼ぶのではなく、名で呼ぶこと、それが他者を他者として迎え入れるということである。

他者に対しておのれを劈くということである。

——鷲田清一『「聴く」ことの力』

---

歌のコトバから

---

飲み過ぎてくだまいて突っ走る四号線  
政治批判でもなんでもいいから話をして  
途方もない真っ黒が喉につっかえて  
吐き出したくないもの吐き出してしまいそうなんだ

タクシードライバー 夜の向こうへ連れてって

——amazarashi『タクシードライバー』（作詞：秋田ひろむ）

---

【5】

さろんアーカイブの遊歩道 #28 (ネムノキ)

---

カテゴリ：【さろん哲学 議事録】 第35回

テーマ： 「公正」

開催日： 2013年7月21日

[http://salon-public.com/wp-content/uploads/2017/02/salon\\_giji\\_35.pdf](http://salon-public.com/wp-content/uploads/2017/02/salon_giji_35.pdf)

先日、ある医大が女性受験者の得点から一律減点し、合格者数を抑えていたという報道がありました（後日、一部の男性受験者に対する減点も判明）。何の気なしに開いた Twitter でそのニュースを見て自分の目を疑い、記事を何度となく読み返しました。その間も沢山のツイートがタイムラインを埋め尽くし、深夜まで途切れなく続くそれらから私は目を離す事ができずにいました。

医大入学を目指すような優秀な頭脳を持ち合わせない私ですら感じた、足元の地面が崩れるような衝撃。面接や推薦入学には私情や大人の事情が影響する事もあるかもしれない、でもテストの方は点数のみによって測られる平等な競争だと信じていたから。その点数自体が操作されたという事実によくの人が訴える怒りや嘆きのツイートを読みながら、誰もがそれを許しがたい不正と感じているのだろうと私は思いました。

でも時折「女性は出産で離職するから女性医師が増えたら医療が崩壊する、よって女子学生数を低く抑えるのは不当ではない」という意見もあり、驚きと苛立ちを覚えました。自分が不正と見做す問題を正しい（或いは、間違っていない）と考える人も多く存在する。——その事実直面するのは、不安で居心地の悪い事でした。他の人も私と同じような正義感や道徳を備えているはず、と思えた方が、なんだか安心できるのです。音楽の趣味や好きな食べ物は人それぞれで構わない、でも「正しさ」についての考えは皆が大体同じであってほしい、そう望んでいる自分に気づきました。

全ての人が同意できる公正があるのか？それとも正しさの基準は立場や属性によって違うのだろうか？何かヒントを得られる事を願いながら、この対話の記録をもう一度読み返してみようと思います。

---

## 編集後記

メールニュース第 121 号をお届けします。

梟ですこんにちは。ホウ。

この夏、スタッフ H がさろんのフクロウ・ロゴマーク（さろんちゃん）の刺繍入りポロシャツを身につけていたのに気づきましたか。本人もお気に入りの逸品です。

このさろんロゴマーク入りのアイテムというのは他にも幾つかあって、スタッフでも持っていない「マグカップ」（クリパの景品でした）とか、今治タオル（スタッフ H が所有）、シャチハタ X スタンプ（スタッフ S が管理）とか、スタッフに配布された刺繍入りハンカチ等があったりします。

今後どんな物とさろんちゃんがコラボしたら面白いかな。ブックカバーや葉、ピンバッジなんかもアリかも。アイデアがあったらぜひコソッとスタッフまで耳打ちしてくださいませ。

そんなわけで来週 25 日の哲学プラクティス連絡会にブースを出します。

ブース出展の申込み手続きがあって、配布用のチラシの原稿をまとめて、刷り増して、元気に、忘れ物なく、立教大学に向かいたいとおもいます。

今年の連絡会は、スタッフ S、K、H の 3 名が参加。

みなさま会場でお会いしましょう♪

それにしても業務多忙の夏でした。

「忙」の文字通り心を亡くしてたようで、7 月入って夏が来たなーと思っていたらもう秋の一步手前という。。。みなさんの「September Issue」は何でしょうか。

（同名映画を思い出す季節になりました）

それではまた次号でお会いしましょう。ホウ。

編集：(梟)

さろん | Mail News 2018/8/18  
⇒次号 (9月1日頃発行予定)

---

---

さろん Mail News 第121号 / 2018年8月18日発行【読み物号】  
編集・発行：さろん  
salontetsugaku@gmail.com  
<http://salon-public.com/>  
<https://twitter.com/salontetsugaku/>  
<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

---

- ◇ 「さろん」にお知らせいただいたお名前・メールアドレスなどの個人情報は、当会からのご案内のためだけに使用いたします。  
また、ご本人の同意なく第三者への提供はいたしません。
- ◇ 「Mail News」の無断転載はご遠慮ください。転載ご希望の場合はご連絡願います。  
バックナンバーはHPからご覧いただけます。
- ◇ 【Twitter】 <https://twitter.com/salontetsugaku>
- ◇ 【Facebook】 <https://www.facebook.com/salontetsugaku/>
- ◇ 【ホームページ】 <http://salon-public.com/>
  - 「さろん哲学」 Web サイト <http://salon-public.com/tetsugaku/>
  - 「朝さろん」 Web サイト <http://salon-public.com/asa/>
  - 「さろん工房」 Web サイト <http://salon-public.com/koubou/>
  - 「あるばか学校」 blog <http://alpacagakkou.blog.fc2.com/>



"copyright (c) 2011-2018 さろん. All rights reserved."

---